

研究テーマ：「厚岸湾におけるゼニガタアザラシの漁場来遊行動に関する研究」

研究責任者：今井貴裕（北海道大学大学院 環境科学院 生物圏科学専攻）

【始めに】 北海道東部に位置する厚岸湾は、カレイやニシン、シラウオ漁など、漁業が非常に盛んである。その厚岸湾ではゼニガタアザラシによるものと考えられる漁業被害が発生している。具体的には、魚に傷を付けることで魚の市場価値を低下させることや、魚を食べることで漁獲量を低下させることなどが挙げられる。このため、様々な漁業被害対策が講じられている。しかし、その効果が長続きせず、被害を確実に減少させることができる対策も未だ存在していない。そのため、漁業とアザラシの共存を考えるためには、実際に被害を与えているアザラシ側からの情報が必要である。まず、ゼニガタアザラシが実際に漁場に来遊するのかを明らかにするため、陸上からと海上からの目視調査を行った。漁場への来遊確認後、いつ・どの漁場に・どのくらい来遊しているのかを、捕獲したアザラシに器械を装着することで調査した。

【方法】 陸上からの目視調査は、2010年3月～10月にかけて苫多地区にある1張りのしらうお小定置網で、9時から13時までアザラシの出現を観察した。海上からの目視調査は、2009年11月～2010年10月にかけて厚岸湾内を船で航行することでアザラシの出現を観察した。ゼニガタアザラシがいつ・どの漁場に・どれくらい来遊しているのかを調べるために、漁業者の協力を得て、アザラシを捕獲した。そして、超音波を出す器械を捕獲個体に装着した後に放獣した。そして、超音波を受信する器械を数か所の漁場に設置することで、捕獲個体がいつ・どの漁場に・どれくらい来遊しているのかという情報を得た。

【結果と考察】 目視調査により、種類は特定できなかったが、厚岸湾の沿岸域でアザラシが多く観察された。陸上からの目視調査では、シラウオ漁が実施されている2010年3月～4月にかけてアザラシが定置網に来遊しており、その後は観察されなかった。海上からの目視調査でも、2009年11月～2010年6月までアザラシが観察され、その後は観察されなかった。このことから、漁期に伴ってアザラシが厚岸湾に来遊しているものと考えられた。超音波からの情報により、放獣後、アザラシは幅広い日付や時間帯に、複数の漁場に来遊していることが明らかになった。

以上から、沿岸漁業が実施されるに伴って、ゼニガタアザラシは厚岸湾内に来遊するようになる。そして、餌が多いため、繰り返し漁場に来遊するものと考えられる。今回の研究から、アザラシによる漁業被害を減少させるためには、網目の異なる網を漁場周辺に設置することでアザラシだけを漁場に入れないようにすること、また、出漁頻度を増加させることが考えられる。しかし、これらの対策を実施した場合の経費は不明なため、今後は実用面と併せて検証する必要がある。